

2022 年度 天草整肢園 事業報告書

全般について

天草整肢園は、啓仁会基本理念「尊厳・自立・共生」の実現を図る為、2022 年度の事業計画に則り、生活介護、施設入所支援事業を実施しました。

新型コロナウイルスについては、12 月 22 日、職員 1 名の発生を機に感染が広がり 12 月 25 日、クラスターと認定されました。2023 年 1 月 16 日収束するまでに、天草整肢園の感染者数は利用者 12 名、職員 4 名でした。また陽性者・濃厚接触者を隔離する為、感染症ケア室を天草整肢園に設け、感染していない多数の利用者の方に居室移動、更に居室から出る事を制限、訓練や入浴を中止する等大変ご迷惑をお掛けしましたが、利用者の方のご理解とご協力を頂きました。職員については陽性者、濃厚接触者、その他の利用者に分かれて職員が尽力し、施設内の消毒・清掃、食事を使い捨て食器等に変えて居室まで配膳、支援も大変な労力でしたが、利用者・職員共に収束するまでという思いで一致団結して乗り切ることが出来ました。

利用者に関しては、知的障害の利用者の方が胃がんを発症。入院をされましたが本人が「施設に帰りたい。」と強い希望があり退院されました。しかし転移等もあり、徐々に病状は悪化、家族からも本人へ入院を勧めて頂きましたが、「入院はしない。施設がよか。」と強く拒否、本人、主治医、家族で話し合った結果、ご本人の意思を尊重し、施設で療養されました。訪問看護を利用し主治医と連携しながら、点滴等を行ってもらいました。日々病状が悪化する中、看護師、生活支援員、その他の職員も対応、職員に見守られながら、令和 5 年 3 月 25 日に永眠されました。ご家族からは施設の対応にとっても感謝され「妹は天草整肢園に入所して幸せだった。」とお礼の言葉を頂きました。

利用者については、2023 年（令和 5 年）3 月 31 日時点で、男性 27 名、女性 11 名の合計 38 名、平均障害支援区分は 5.05 でした。年齢構成は 80 歳代の方が 1 名で最高齢の 84 歳、70 歳台が 12 名、60 歳台は 14 名となっています。高齢化により健康面では病院受診が多くなり、介護面では機能低下による介助量が増えています。

個別支援計画については、利用者本人及び各部署参加にて、利用者の意向を聞きながら個別支援検討会議を開催しました。

職員については、外部研修はオンライン研修に参加する事でスキルアップを図りました。施設内研修では、KYT 研修、救急法、食中毒の勉強会など各部署及び委員会の主催で職員会議の中で実施しました。人権研修については、苓龍苑が虐待認

定を受けたこともあり、外部講師を招いて虐待防止研修やアンガーマネジメント研修を実施しました。また、朝の職員ミーティングにおいて今年度予定の熊本県福祉サービス第三者評価受審の評価基準についても毎日読み合わせを行い、職員の意識付けを行いました。

ふれあい公園の活用では 2022 年度も春と秋に希望者を募り、公園で昼食を食べて頂きました。また日中活動及び訓練時間に活用することで、解放感と気分転換を図る事ができ大変好評でした。